

平成22年度 第4回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成22年9月28日(火) 午後2時00分～5時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】

委員

加藤 勇夫〔愛知学院大学名誉教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンサルティング オフィス アット・ドリーム〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
松井 栄子〔三州足助公社〕

事務局

鈴木 辰吉〔豊田市産業部長〕
畔柳 寿文〔豊田市産業部調整監〕
太田 錬治〔豊田市産業部商業観光課長〕
清水 章〔豊田市商業観光課副主幹〕
松澤 秀記〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕
鈴木 啓介〔豊田市産業部商業観光課主査〕

傍聴者

なし

【次 第】

- 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
(1) 空き店舗活用支援事業について
・豊田まちづくり(株)
- 5 審議事項
(1) 商店街活性化計画について
・小原商工会

(2) がんばる商店街応援プランローリングについて
- 6 その他
- 7 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成22年度第4回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 報告事項

(1) 空き店舗活用支援事業について

・豊田まちづくり(株)

事務局より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

西町商店街協同組合の活性化計画及び中心市街地活性化基本計画に記載された飲食店ストリート構築事業の一環としての空き店舗活用で、国の「地域商店街活性化法」に基づく商店街活性化計画事業として認定された事業である。西町商店街の一員として商店街活動に協力することを条件とすることが必要。

委員

テナントのオーナーとして豊田まちづくり(株)がきちんと監督することが必要。

委員

昼と夜の客層の違いにきちんと対応することが必要。

5 審議事項

(1) 商店街活性化計画について

・小原商工会

小原商工会より資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

桜バスの利用目的は？

小原商工会

地区内の病院や交流館を利用する際に利用されることが多い。

委員

100円補助で買物に利用されるのか？

小原商工会

実験的に実施してみて効果を見る。

委員

効果検証が重要。100円の効果だけを見るのではなく、こういったニーズがあるのかまで調べられると良い？補助終了後は、どうするつもりか？

小原商工会

キャッシュバックは商工会で対応できる範囲と想定している。

事務局

桜バスはフルデマンド方式。小原支所に確認したところ、予約ができない高齢者もあるとのこと、その場合の支援方法を検討中とのこと。

事務局

小原の商業者ががんばっている姿を見せたい。小原支所やおばら桜バス利用促進会と連携し、御用聞き（安否確認）みたいなこともできないか検討している。

委員

アンケート結果の優先順位から見ると「商品の品質・鮮度」が求められているにもかかわらず、提案されている事業計画の中には、それに対応するものがなく、整合性が取れていない。

また、特産品づくりについては、「特産品」として実施するのか、「地域ブランド」として実施するのか？地域資源や農商工連携といった顧客が望むものをマーケティングして作り上げていくものが「地域ブランド」、地域にたくさんあるものでこれは売れるであろうというものが「特産品」。さらに「地域ブランド」には、「発掘型」と「開発型」とあり、「開発型」は大変である。

今回の提案は「開発型の地域ブランド」に近いと思われるが、それを作っていくにはストーリーがないと消費者の良い反響は得られないので、地域の歴史や資源等いろいろ調べていく必要がある。

委員

小原のたまごや豆腐はわざわざ買いに行くくらい有名。それを使って発展化するほうが小原のイメージがしやすいのでは？

委員

後継者問題解決のためにも、空き店舗に外部から人を引っ張ってきて、たまごや豆腐を使った料理店を展開させるなど、戦略的に店舗を作っていくような施策を考えていくことができないか？商業機能を創出するのも商工会の仕事。成功事例がひとつできると次につながっていく。店を守るだけでなく、作っていくことも必要。

委員

外部から若者を呼び込み、小原の豆腐を様々なところへ売り込むビジネス展開ができるとそれなりに反響がありそう。

事務局

小原に既にある資源を十分に活用していくことも加味した計画に熟成できると良いとは思いますが、まずは動き出しをしながら、悪ければ方向性を変えるなど検討し、まずは動き出しを応援していきたい。

委員

本事業の認定は妥当であると考えている。

(2) がんばる商店街応援プランローリングについて

事務局より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

消費購買力を吸引できる商業環境を創出する施策を提案し、小売吸引力1.0以上を目指すと明記すべき。

委員

そのための施策として、前回の「がんばる商店街応援プラン」のメニューから個店・商店街の魅力化、商業地活性化の支援策を打ち出している。

委員

個店だけがいくらがんばっても小売吸引力1.0以上は難しい。大型店との競争と連携が必要。

委員

大型店の進出は周辺の商業施設に大きな影響を与え、当然、それは直接市民生活に影響する。大型店まで車等を利用して買物に行くことができる人は良いが、そうでない人も当然いるわけであり、地域で安心して生活できる環境を維持・強化していくためにも現存の商業施設をある程度保護しながら、支援していく必要がある。

また、商業の目線で地域コミュニティまで考えた社会的なサービスを提供していくことが今回の見直しの大きな特徴である。

委員

コンビニエンスストアの中には、公共料金の支払窓口や宅配の受け取り、生鮮食品の販売といった、かつては商店街が担っていた機能を代替するなど、時代や地域ニーズに合わせた取り組みを始めている店舗も出てきているので、そういった店舗を取り込んでいくことが、今後、地域商業を考える上で重要となってくる。

また、商業者による地域課題解決への支援については、子育て支援等を含めた広い意味での地域課題の解決まで含めるのか、あくまで買物弱者支援といった地域生活課題の解決に留めるのか、基準を定める必要がある。

6 その他（連絡事項）

今後の予定

平成22年度 第5回開催予定日 平成22年12月22日（水）10:00～

以上